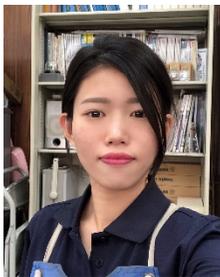
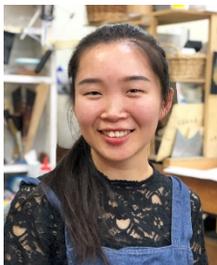


## 取材対応者(予定)

## 特色ある取組

芸術文化学部 教授  
林 暁柳沢管楽器 研究員  
赤岩友梨江

このプロジェクトは、取材対応者の赤岩友梨江の本学部4年時の卒業制作において、本学教授林暁が指導教員として関わった「漆を塗ったサクソフォーン」の制作から始まった。銅合金或いは銀製の楽器に漆を塗布する技術から始まり、伝統的な漆の加飾、その音色に至る総合的な技術開発・研究がこの取り組みの特色である。赤岩はその後、東京の柳沢管楽器の社員となり、本学に出向して研究開発を続けている。

芸術文化学研究科1年  
高 幸

研究室は学部4年生と大学院生、研究員で構成されており学内でも専門性の高い漆芸の内容を扱っている部屋と言えます。伝統的な技術の習得に励むことはもちろん、3DプリンターやNC切削機を取り入れるなど先進的なものも研究に取り込んだ研究を行なっています。週に2回ゼミが行われ、主在那里で各自の制作の指導を受けます。自身の制作に対する指導を受けるだけでなく、他の学生の課題点やそれに対する解決策などを共有することができ、幅広く学習できる環境となっています。

## 上記取組による成果・評価 など

漆塗りのテナーサクスは、美しい外観は期待できたものの、肝心の音色については全く期待していなかったが、最終的にメーカーで調整し試奏してみると今までにない柔らかい音色が出て、関係者全員が驚いた。これをきっかけに、メーカーの後押しもあり、さらにソプラノ・アルト・テナー・バリトンの4種の楽器を制作した。作られた楽器を演奏する専属のカルテットによる演奏会も各地で回を重ね講評を博している。また、漆塗りのサクスのための曲を複数の作曲家に依頼し、その曲を集めたCDも2018年に発売されている。音質の解析は、早稲田大学理工学部の菅野由弘教授に依頼し、同大学学生の吉原智紀氏の卒業論文として纏められた。同教授には漆塗りの楽器のための作曲をも依頼し、前述のCDに収められている。



漆のサクソコンサートの様様

<https://www.aubade.or.jp/topics/performance/aubade-hall-x-富山大学芸術文化学部【漆サクソトヨヤマデビューコンサート】/>

カルテットメンバーインタビュー

<https://www.alsoj.net/sax/magazine/view/905/2710.html#.XTiPffZuKUK>